

第2章 当別町の子どもと子育て家庭の現状と課題

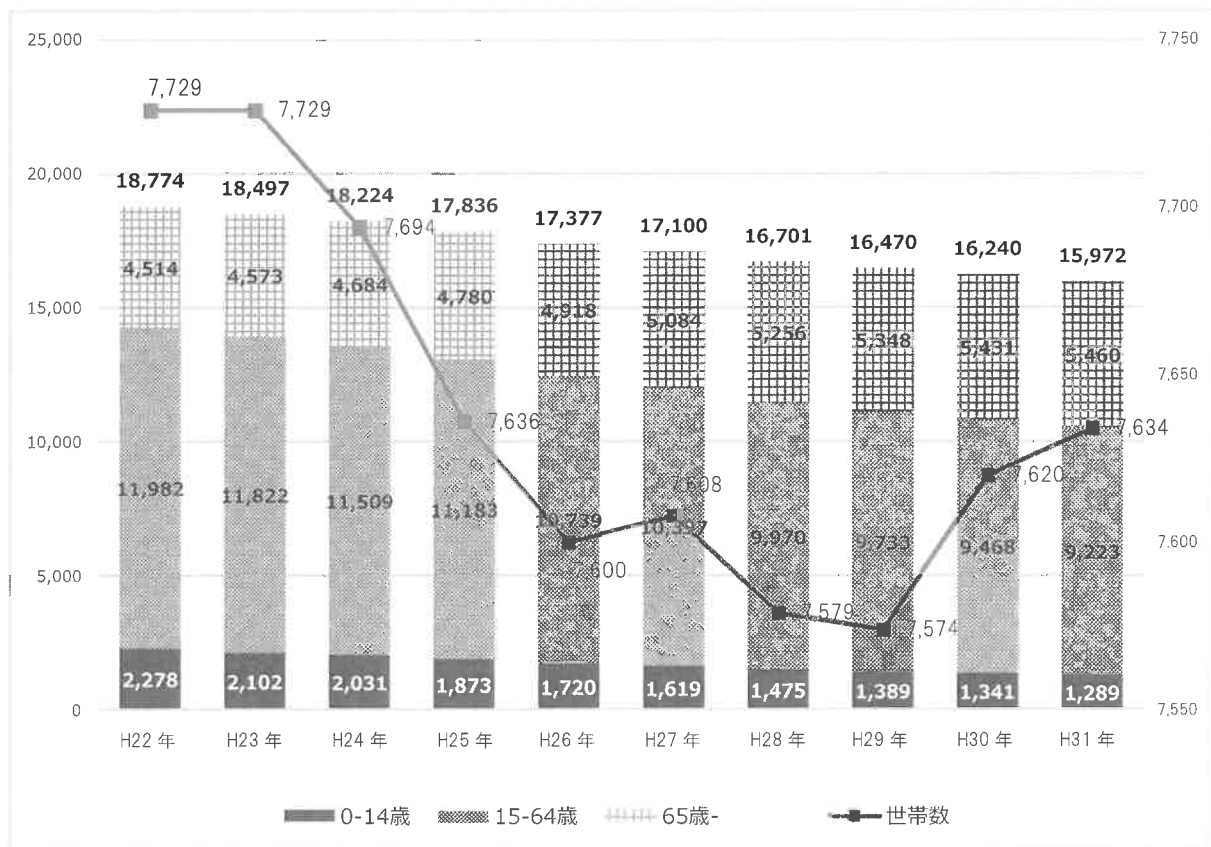
第1節 人口と世帯の状況

1 総人口と総世帯の状況

住民基本台帳によると、当別町の人口は全体をみると減少傾向となっています。また年齢3区分でみると15歳未満人口は減少傾向、65歳以上人口は増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が表れています。

一方、世帯数は減少傾向が続いていたものの、平成30年度からは増加しています。

総人口と年齢3区分、世帯数の推移



資料:住民基本台帳(4月1日現在)

2 世帯類型の変化

平成17年から平成27年における当別町の世帯類型の変化をみると、「核家族世帯」や「核家族以外の世帯」が減少傾向であるのに対し、「単独世帯」のみ増加しています。全国的な傾向と同様に、未婚率や離婚率の増加、さらには高齢化に伴う配偶者との死別等により単独世帯が増加している可能性があります。

世帯類型の推移



資料：国勢調査

※核家族世帯：「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」、「ひとり親と子供から成る世帯」

※核家族以外の世帯：「夫婦と両親の世帯」、「三世代の世帯」など

国勢調査によると、当別町の未婚率は全国値よりも低く26.6%となっていますが、北海道値よりも高くなっていました。

未婚率の比較（平成27年）

全国	27.3%
北海道	25.9%
当別町	26.6%

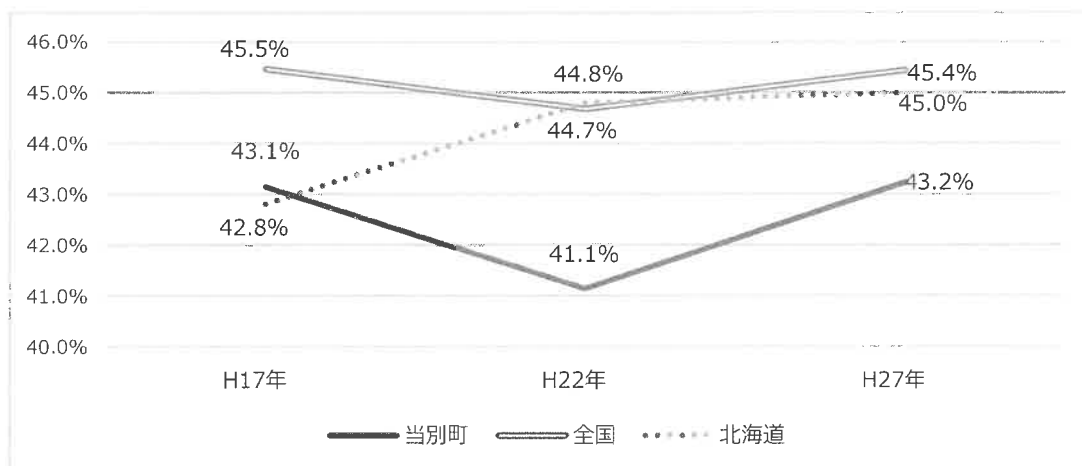
資料：国勢調査

3 女性の就業状況

平成17年から平成27年の当別町における女性の就業率の推移をみると、平成22年に落ち込むものの、平成27年には回復しています。

また、全国値・北海道値と比較すると、いずれも当別町の方がやや低く、平成27年時点では43.2%となっています。

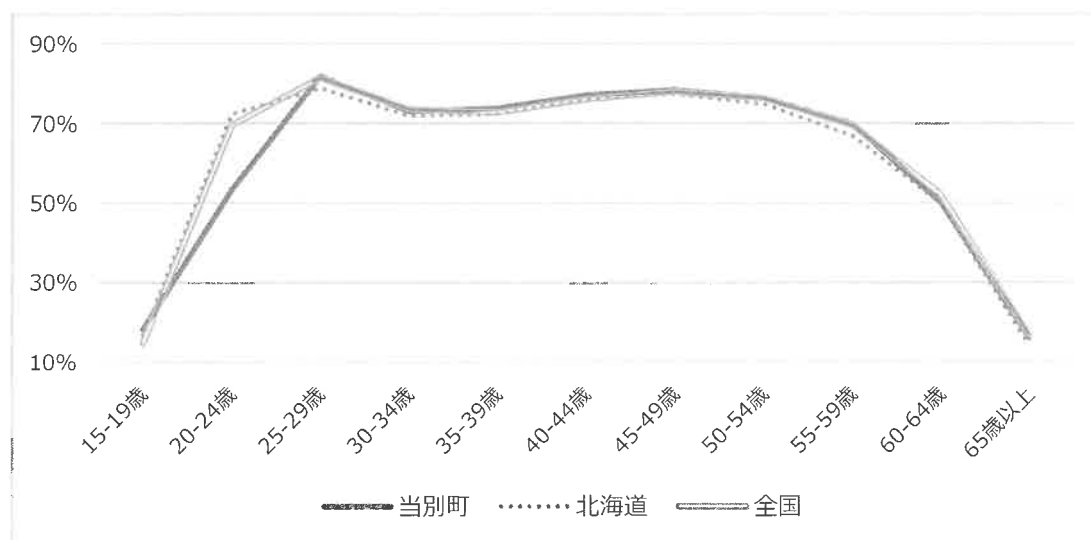
女性の就業率の推移



資料:国勢調査

国勢調査によると、当別町の女性の年齢別（5歳階級）労働力率は、20-24歳を除き、おおむね全国値・北海道値と同様の傾向となっており、ゆるやかなM字カーブとなっています。

女性の年齢別（5歳階級）労働力率（平成27年）

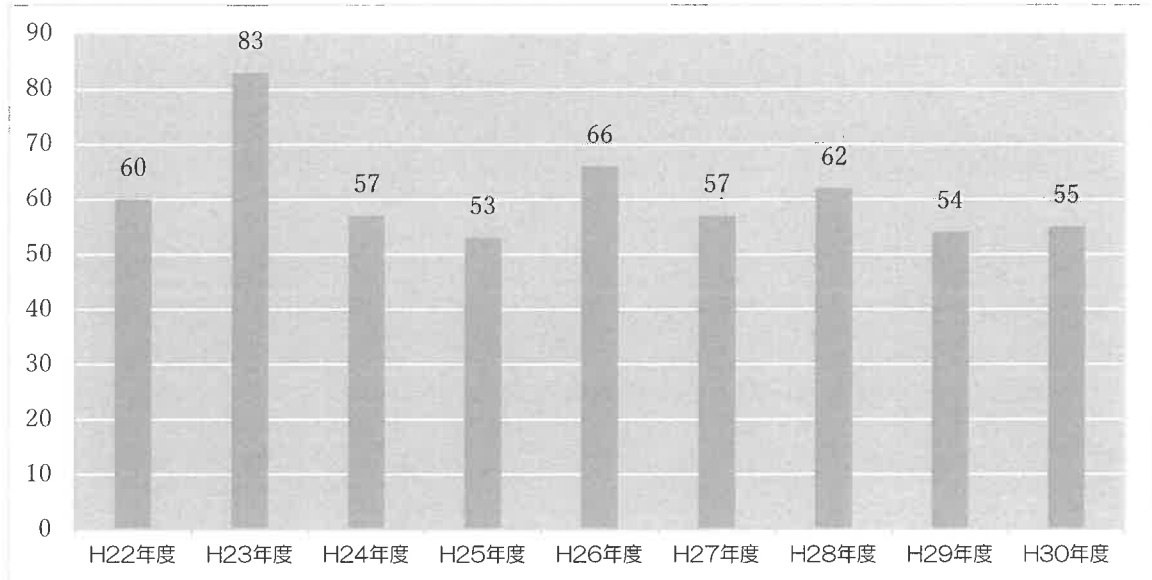


資料:国勢調査

4 出生の状況

平成 22 年度から平成 30 年度の当別町における出生の状況をみると、出生数は微減傾向となっています。

出生数の推移

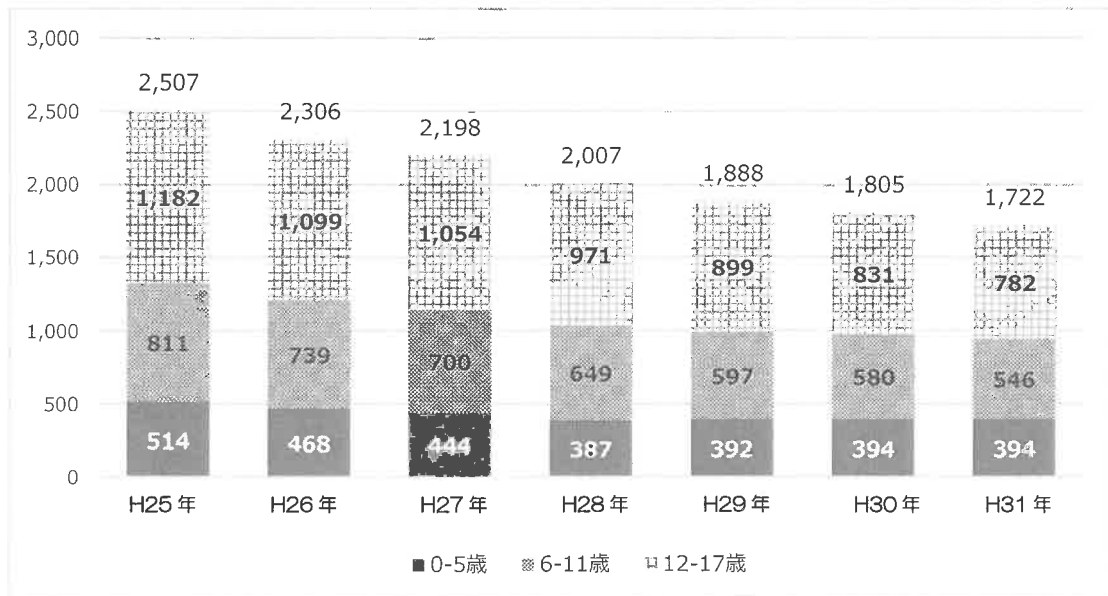


資料:住民基本台帳

5 児童数の状況

0～17歳の児童数は、平成 31 年において 1,722 人です。このうち、就学前児童数は 394 人、小学生児童数は 546 人、12～17歳の児童数は 782 人となっています。小学生及び 12～17歳の児童は、平成 25 年以降の推移で見ると、減少傾向にあります。

なお、就学前児童数は、平成 28 年以降横ばい状態となっています。



資料:住民基本台帳(4月1日現在)

第2節 アンケート調査結果からみた子育て環境について

◆◆調査の目的◆◆

「第2期子ども・子育て支援事業計画」の策定にかかる基礎データを得るために、家庭における子育てに対する生活実態や意識などのアンケート調査を実施しました。

◆◆調査の概要◆◆

令和元年5月に実施し、就学前児童世帯用・小学生世帯用の2種のアンケートを以下の対象者に実施しました。

それぞれの回収率は以下の通りです。

調査対象	調査数	調査方法	有効回収※票数と有効回収率
就学前児童世帯(保護者)	306人	郵送配布・回収	119(38.9%)
小学生世帯(保護者)	433人	郵送配布・回収	157(36.3%)

※有効回収とは、集計対象にできた回収分のこと。

●調査期間

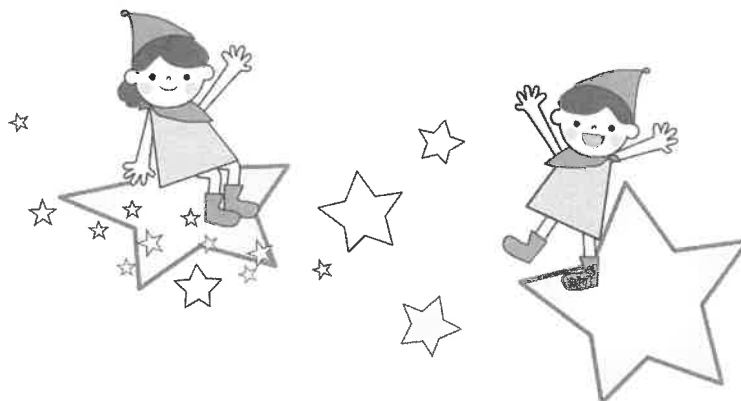
令和元年5月10日～令和元年5月27日

●調査方法

調査は、国が定めた調査項目に町独自の設問を設けた調査票により実施しました。配布・回収は、いずれも郵送にて実施しました。

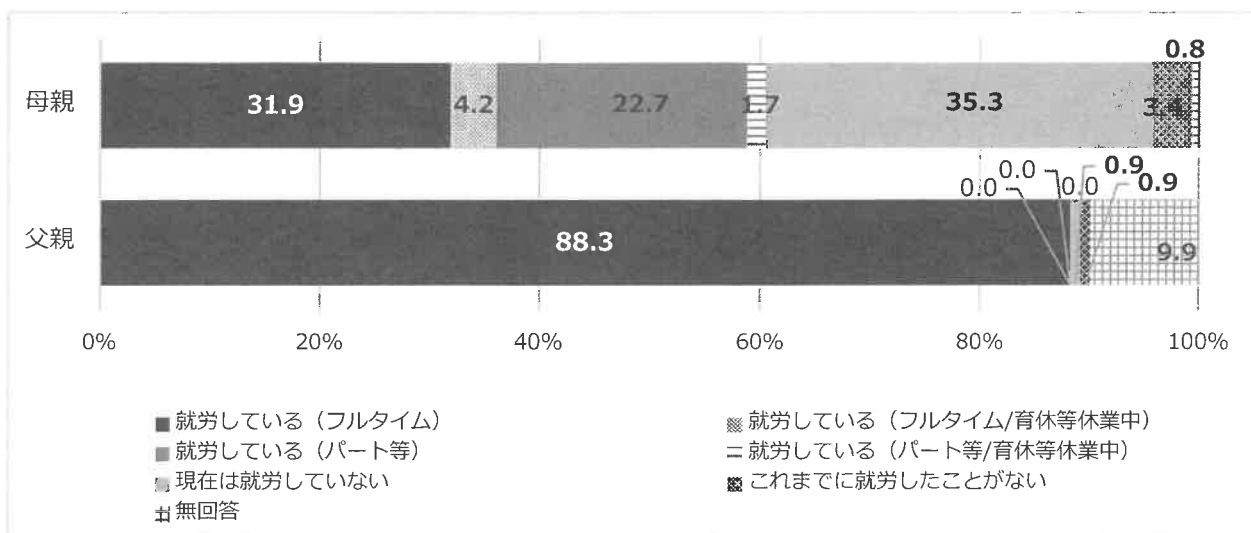
●調査対象者

0歳から小学6年生までの児童のいる町内全世帯の保護者。



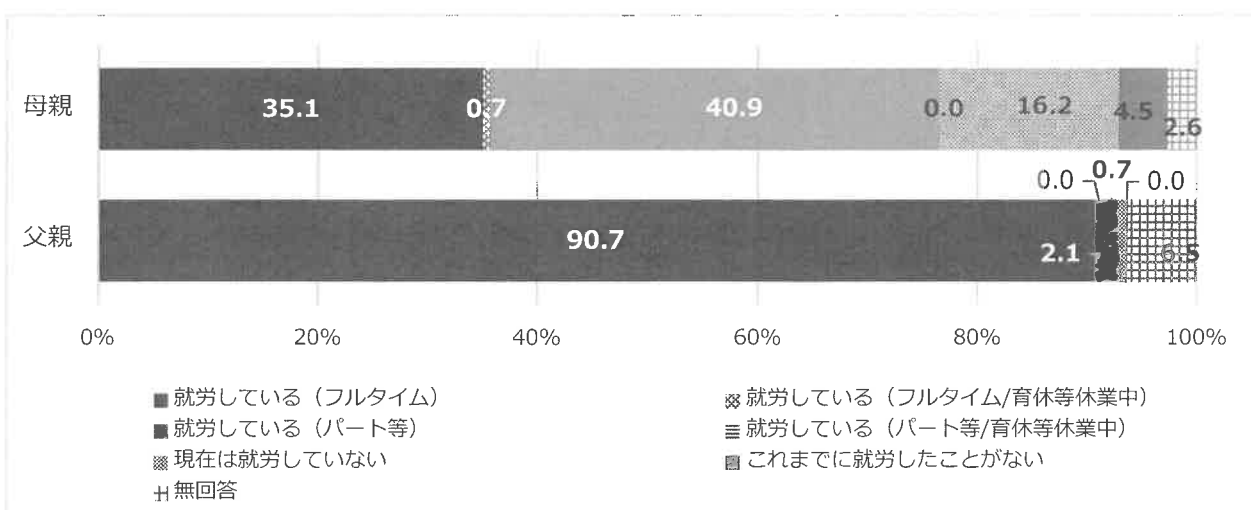
1 保護者の就労状況について

◆保護者の就労状況（就学前／父親：111人、母親：119人）



就学前児童保護者の就労状況について、母親は産休・育休・介護休業中の保護者も含めると「フルタイムで就労している」が36.1%ともっとも多く、ついで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が35.3%となっています。また、父親は「フルタイムで就労している」が88.3%ともっとも多くなっています。

◆保護者の就労状況（小学生／父親：140人、母親：154人）

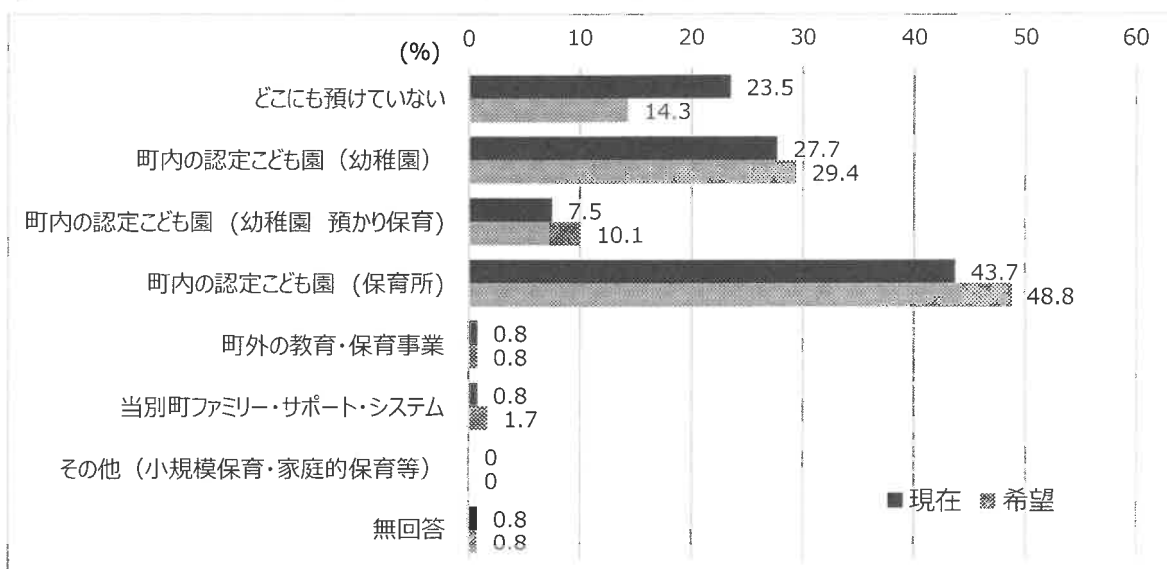


小学生保護者の就労状況について、母親は産休・育休・介護休業中の保護者も含めると「パートタイム等で就労している」が40.9%ともっとも多く、ついで「フルタイムで就労している」が35.8%となっています。また、父親は「フルタイムで就労している」が90.7%ともっとも多くなっています。

就学前児童保護者と小学生保護者を比較すると、就労していない母親の割合が38.7%から20.7%へ、18.0ポイント減少しています。

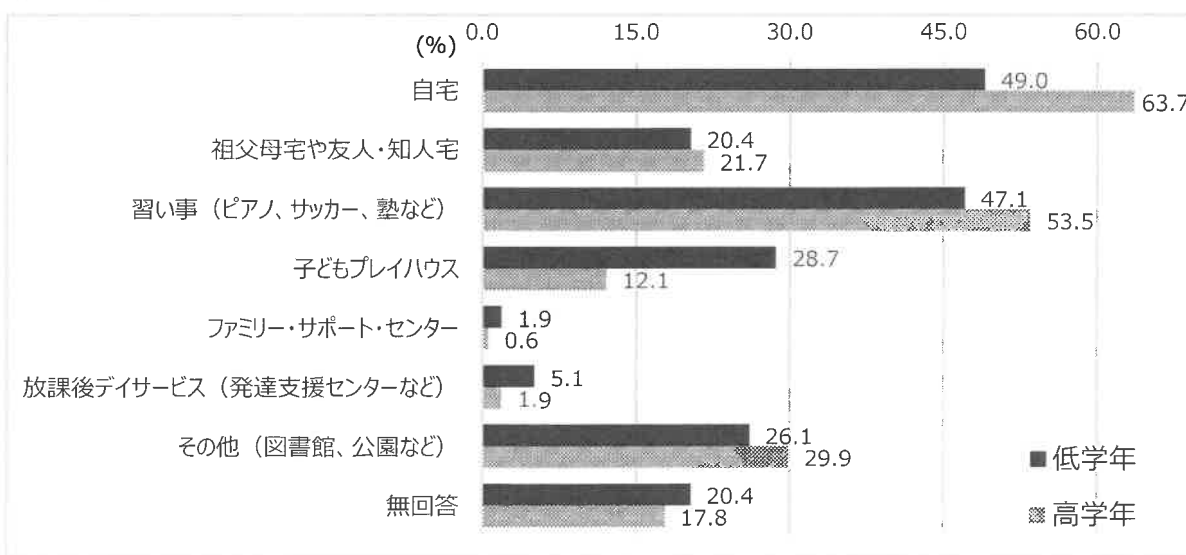
2 教育・保育事業の利用状況について

◆教育・保育事業の利用状況と、今後の希望（就学前のみ／n=119）



教育・保育事業の現在の利用状況と今後の希望について、いずれももっとも多い回答が「町内の認定こども園（保育所）」で43.7%となっています。現在の利用と今後の希望のギャップをみると、「町内の認定こども園（保育所）」は5.1ポイントの差があり、利用ニーズが高いことがうかがわれます。

◆放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいか（小学生のみ／n=157）



放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、低学年時の希望はもっとも多い回答が「自宅」で49.0%、ついで多い回答が「習い事」で47.1%となっています。また高学年時の希望も同様の傾向で、もっとも多い回答が「自宅」で63.7%、ついで多い回答が「習い事」で53.5%となっています。子どもプレイハウスは、子どもが低学年のときに利用したいというニーズが高いことがうかがわれます。

3 子どもの生活の現状について

◆お子さんは、家族と一緒に食事をしているか

ほぼすべてのご家庭において、毎日ご家族一緒での食事がされています。

	就学前児童保護者		小学生保護者	
	人数	%	人数	%
ほぼ毎日一緒に食事をしている	109	91.6	146	93.0
週に4、5日は一緒に食事をしている	3	2.5	3	1.9
週に2、3日は一緒に食事をしている	1	0.8	4	2.5
週に1日は一緒に食事をしている	1	0.8	0	0.0
ほとんど一緒に食事をしていない	2	1.7	1	0.7
無回答	3	2.6	3	1.9
全体	119	100	157	100

◆家庭学習の頻度（小学生のみ）

もっとも多い回答が「ほぼ毎日」で70.7%、ついで多い回答が「週に4～5日」で17.8%となっています。また、1日の家庭での学習時間（塾等、学校の授業以外での学習を含む）は平均で1.0時間となっていました。

	人数	%
ほぼ毎日	111	70.7
週に4～5日	28	17.8
週に2～3日	7	4.5
週に1日	5	3.2
まったくしない	6	3.8
無回答	0	0.0
全体	157	100

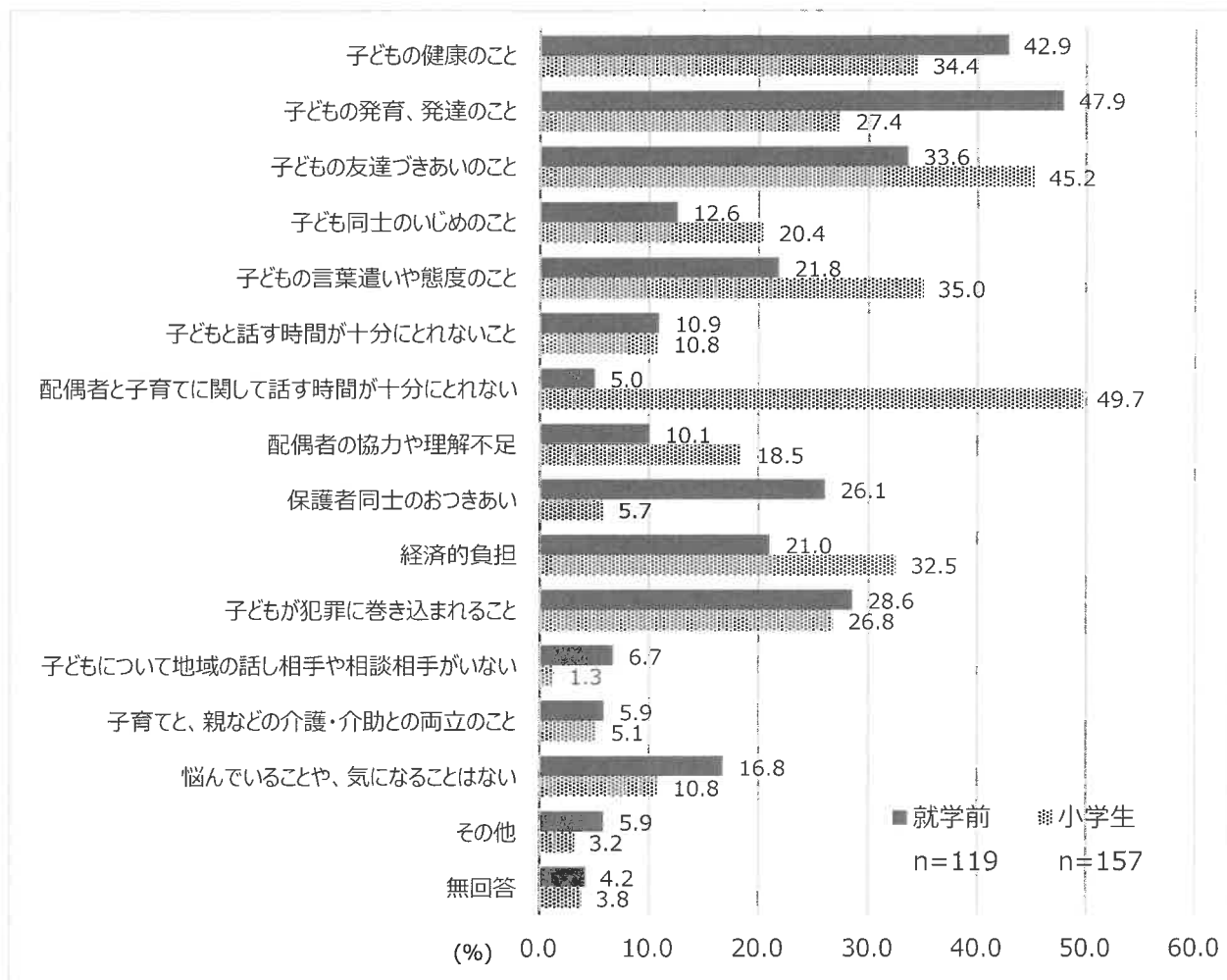
◆家のお手伝いの頻度（小学生のみ）

もっとも多い回答が「週に2～3日」で34.4%、ついで多い回答が「週に1日以下」で25.5%となっています。

	人数	%
ほぼ毎日	36	22.9
週に4～5日	14	8.9
週に2～3日	54	34.4
週に1日以下	40	25.5
まったくしない	12	7.7
無回答	1	0.6
全体	157	100

4 子育ての状況について

◆子育てに関する悩み



子育ての悩みについて、就学前児童保護者では、もっとも多い回答が「子どもの発育・発達のこと」で47.9%、ついで多い回答が「子どもの健康のこと」で42.9%となっています。

小学生保護者では、もっとも多い回答が「配偶者と子育てに関して話す時間が十分にとれないこと」で49.7%、ついで多い回答が「子どもの友達つきあいのこと」で45.2%となっています。

項目別にみると、未就学児童保護者は発達・健康などを悩みに感じる割合が高いのに対して、小学生保護者は子どもの交流や態度などを悩みに感じる割合が高く、子どもの成長に従ってコミュニケーションに関する悩みが多くなるという傾向がうかがわれます。

◆子育てに関する情報

子育てに関するどのような情報がほしいかについて、就学前児童保護者では、もっとも多い回答が「子ども向けイベント行事の情報」で77.3%、ついで多い回答が「公園や遊び場の情報」で68.9%となっています。

小学生保護者では、もっとも多い回答が「医療機関の情報」で62.4%、ついで多い回答が「小学校等の情報」で53.5%となっています。

	就学前児童保護者		小学生保護者	
	件数 (複数回答可)	%	件数 (複数回答可)	%
子どもの育児やしつけの情報	41	34.5	22	14
子ども向けイベント行事の情報	92	77.3	78	49.7
医療機関の情報	77	64.7	98	62.4
公園や遊び場の情報	82	68.9	69	43.9
子どもの発達や障がいの情報	25	21	13	8.3
子ども連れで行ける飲食店の情報	69	58	33	21
幼稚園や保育所、認定こども園の情報	45	37.8	15	9.6
小学校等の情報	34	28.6	84	53.5
学習塾など習い事の情報	63	52.9	65	41.4
少年団等サークルの情報	41	34.5	36	22.9
その他	4	3.4	3	1.9
特に必要はない	4	3.4	7	4.5
無回答	2	1.7	1	0.6
全体数	[119人]		[157人]	

5 当別町の子育て環境について

◆子育てをする中で重要と思われる支援・対策（就学前児童保護者）

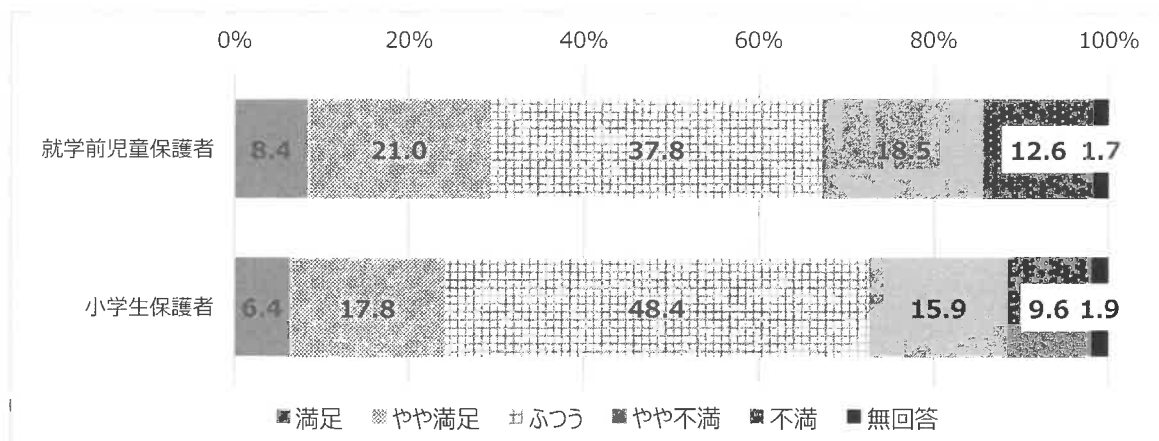
子育てをする中で重要と思われる支援・対策について、もっとも多い回答が「小児科など子どもの医療の充実」で63.0%、ついで多い回答が「屋内遊戯施設など屋内活動場所の充実」で35.3%となっています。

	件数(複数回答可)	%
子育てに関する相談受付体制の強化	10	8.4
地域における子育て支援の充実	23	19.3
子育て支援のネットワークづくり	7	5.9
妊娠・出産に関する支援	14	11.8
子どもの教育環境の整備・充実	24	20.2
仕事と家庭生活を両立させる支援	34	28.6
いじめや虐待防止に向けての取り組み	11	9.2
保育等のサービスの充実	28	23.5
公園など野外の活動場所の充実	41	34.5
屋内遊戯施設など屋内活動場所の充実	42	35.3
小児科など子どもの医療の充実	75	63.0
子どもを狙った犯罪や事故の減少	19	16.0
その他	2	1.7
無回答	1	0.8
全体数	[119人]	

◆当別町の子育てのしやすさ・満足度（就学前／n=119 小学生／n=157）

就学前児童保護者の当別町の子育てのしやすさ・満足度について、もっとも多い回答が「ふつう」で37.8%、ついで多い回答が「やや満足」で21.0%となっています。

小学生保護者の当別町の子育てのしやすさ・満足度について、もっとも多い回答が「ふつう」で48.4%、ついで多い回答が「やや満足」で17.8%となっています。



第3節 統計とアンケートから見えてくる課題

国の出生数は平成30年に91万8,400人となり、昭和22年以降、過去最低となっています。また、1人の女性が一生の間に産む子どもの数の目安とされる合計特殊出生率は、全国値で平成29年は1.43となり、前年より低下したものの、過去最低となった平成17年の1.26を底として微増傾向が続いています。しかし、将来にわたって人口を維持するために必要とされる2.08をいまだ大きく下回り、少子化の進行は、社会の活力の低下や、社会保障をはじめとする社会経済全体に極めて深刻な影響を与えるものであると懸念されています。このような背景には、非正規雇用の増加など、若者が経済的・精神的に自立できない状況の顕在化や、結婚や子どもを持つことに対する意識の多様化があると考えられます。

当別町においても同様の傾向が見られ、少子高齢化が進行しています。各家庭においてもニーズが多様化しており、地域全体・社会全体で子どもとその親を育む仕組みづくりが求められています。本計画においても、第1期計画から引き続き、より一層子育て支援環境の充実に取り組んでいくこととします。